

車載カメラの画像3D化

金井度量衡

装置
導入

街並み変化を疑似体験

している。行政や広告代理店などの需要を見込み、既に建設コンサルタント会社からの引き合いもある。

測量機器販売の金井度量衡(新潟市中央区)は、車載型全方位カメラで撮影した画像を3次元(3D)化するシステムを導入した。3D映像は建築物の完成予想やまちづくりのシミュレーションにも応用が可能で、新たな市場開拓を狙う。28日に同区で開幕する産業見本市「新潟国際ビジネスメッセ」に出展する。

同社が導入したのは光学機器メーカー、トプコン(東京)の「IPIS 2 Lite」。6面体の360度全方位カメラと衛星利用測位システム



(GPS)、傾きを感知する装置を組み合わせた。車のルーフ部分に設置し、走行しながらそれぞれのカメラが毎秒16コマを撮影、3Dのコンピュータグラフィックスを作成する。建物の形状や

街路樹まで含めた街並みの様子などを計測できる。装置やソフトなどを合わせた費用は約2千万円。

同社は県内でデータ収集を行いながら活用方法を模索し、県内企業に提案したい」としている。

3次元化システムの装置
＝新潟市中央区の金井度量衡